

青年・成人期余暇活動支援の充実について

1. 市内相談支援事業所向けアンケートの結果

○回答数 358人分（令和6年10月22日現在）

○分析の対象 182名

- ・18歳以上
- ・自宅で生活
- ・生活介護または就労継続支援B型利用

○集計結果

【現在の過ごし方】

	生活介護	就労B
移動支援を利用している	9	7
自宅で介護を受けずに過ごしている	13	68
自宅で介護を受けて過ごしている	36	28
日中一時支援を利用している	3	1
日中活動サービスを延長している	1	
趣味やスポーツをしている		3
友人と遊んでいる		7
全体数	64	117

「自宅で介護を受けずに過ごしている」については、明らかに就労Bのほうが多い。
また、趣味活動等を行って過ごすものもいる。

【日中一時支援の支給決定の有無】

	生活介護	就労B
あり	42	21
なし	23	95
全体数	65	116

【日中一時支援を申請していない理由】

	生活介護	就労B
自分で過ごすことができ、必要性がないため	9	6 7
本人や家族が利用しようとしていないため	1 2	2 9
利用できるサービス事業所がないため	6	1
全体数	2 7	9 7

「利用できる事業所がないため日中一時支援を申請していない」については、ニーズがあり、事業所の数が増えれば利用につながるものと考えられる。

「本人家族が利用しようとしていない」については、直ちには利用につながらないが、将来的に利用つながる可能性のあるものと考えられる。

【日中一時支援の申請をしている理由】

	生活介護	就労B
家族が介護できないときのため	2 3	1 3
家族のレスパイトのため	4	1
居宅介護等を利用できないときのため	3	
短期入所と併せて申請しただけ	5	4
土日に利用するため	2	1
日中活動サービス利用後に利用するため	4	1
全体数	4 1	2 0

日中一時支援を申請しているものは、具体的な利用を想定して申請を行っている。また、生活介護利用者のほうが、その数は多い。

【日中一時支援を利用できていない理由】

	生活介護	就労B
サービス事業所が見つからないため	1 2	3
家族が介護しているため	1 2	5
他のサービスを利用しているため	6	
特に利用する必要がないため	2	8
全体数	3 2	1 6

「サービス事業所が見つからないため」については、
現在の指定要件では利用しづらさがあるため事業所が見つからないものと考えられる。

「家族が介護しているため」「他のサービスを利用しているため」については、
家族介護や他サービスの利用が困難な状況になった場合、利用が必要と思われ、事業所
を幅広く選択できるサービス提供環境の整備は必要と考えられる。

○現在の日中一時支援の利用状況（令和6年8月実績より）

利用者数：21名（うち、18歳以上の利用者数：18名）

多くの利用者が平日の夕方に利用している（総利用回数106回のうち、80回）。

2. 行政機関向けアンケートの結果

○回答数 29自治体

○集計結果

【指定要件】

短期入所のみ	10
短期入所・生活介護	2
短期入所・生活介護・就労B	8
すべて	5
その他	4
全体数	29

【送迎への評価】

あり	12
なし	17
全体数	29

【看護師配置への評価】

あり	1
なし	28
全体数	29

【医療的ケア受入への評価】

あり	2
なし	27
全体数	29

【強度行動障がい受入への評価】

あり	2
なし	27
全体数	29

3. 日中一時支援事業者向けアンケート結果

○回答数 6 事業所

○集計まとめ

- ・療育手帳所持者の利用者が多い傾向にある。
- ・障がい支援区分4以上の利用者が多い傾向にある。
- ・平日夕方の利用者多い傾向にある。
- ・6事業所中、4事業所において送迎を実施している。

4. まとめ

これらを踏まえ、現状のニーズに合わせたサービス機会の提供を考える上では、重度障がいのある方に対応できる日中一時支援事業所を増やすため、重度障がいに対応した支援のノウハウを持つ生活介護事業者を事業所指定の要件に加えることがサービス提供体制の強化として必要なものとする。

また、送迎に対する評価についても検討する必要があるものとする。